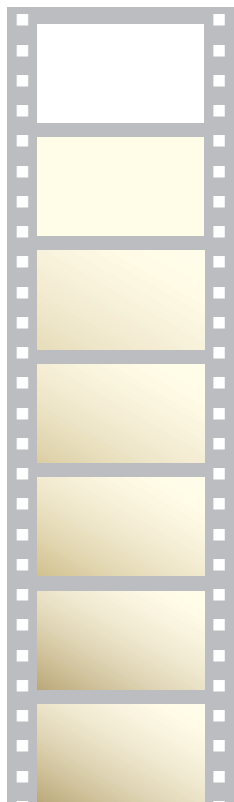
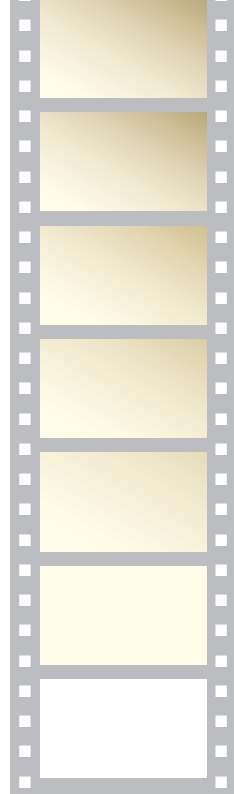


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第六十九回 「運命のおみくじ」

ぼくが転入試験を受けて入学した市立高校は、男子高でした。当時、仙台市内で男女共学の高校は「公立」「私立」とにもありませんでした。

S君とN君は高校時代から顔は知っていました。しかし、深い付き合いもなかったのですが、大学時代同じクラスの仲間でお互い情報の交換も必要としたことから、自然に親しい友達となりました。

N君は大学時代からアルバイトで勤めていた「広告代理店」に就職が決まりました（クラブ活動は「写真部」）。S君は、仙台市内の銀行に入行が決まりました。（S君のクラブ活動は「教育研究会」）。

ぼくがアルバイトをしていたアクセサリー店のKさん（元局アナ）が、「三人組でまだ就職の決まっていないのは仲夫ちゃんだけか？」と言うたびに、ぼくは何か

レッシュャーを感じるのでした。

そんな気持ちに同情して誰かが「塩釜神社シオガマジンジャに元朝参りガンチヨウマイに行かない？来年（昭和45年）は皆んなで良い年にしよう！」と話が盛り上がり、12月31日の深夜、三人で電車に乗り、塩釜へ行くことになったのです。

深夜、仙台駅で待ち合わせ、仙石線（仙台と石巻を結ぶ）でおおよそ10分電車に乗ると、塩釜神社のある「本塩釜駅ホン」に着きました。驚いたことにこの神社は202段の石段を登った頂イタダキに神社の境内があるのですが、ぼくらが着いた時は、参拝客で身動きのとれない状態でした。それでも少しずつ一段一段、境内へ進みました。「ところで塩釜神社は何を祈願する神社なの」と三人の一人が言い始めたのです。考えてみれば塩釜神社は、「航海の安全と交通安全、安産祈願の神社だとパンフレットに書いてあった」と博学のS君が言いました。ぼくは「元朝参り」なら何でもご利益があるだろうと思っていました。「これでは大願成就は見込めない」と石段を登りながら

再び暗い気持ちになるのです。

また、何にでも評論家になるS君は「この境内に二つの神社（志波彦神社・塩釜神社）があるのも不思議だ」と言うので、N君とぼくは「そのことは次の機会にしようよ」と話したのです。

やっと参拝の順番が来て、おさい銭を入れ手を合わせ、柏手を打って「何度もお願いします」と祈りました。「日頃、いかに信心深くないか『苦しい時の神頼み』とはこれだ」と身を持ってわかりました。

するとS君が「この神社は、航海安全・国土開発・安産の神として全国的に有名なんだよな」とつぶやくように言った言葉に「ぼくの『大願成就』は、かなえてもらえるの？」と「苦しい時の神頼み」が一瞬頭をよぎるのでした。

「年の始め、今年の運勢はどうか？」と、ぼくは何気なく社務所で「おみくじ」を引いてみました。薄暗い境内のなかでも照明が当たっているとこがあり、その光



高校時代から親しかったN君とS君そしてほか。
(故人) (故人)

に照らしてよく見ると、何と！大・吉の大字が見えたのです。今年（昭和45年）は、「おみくじ」のようになって欲しいと願い、国の天然記念物に指定されている塩釜桜の隣りの木の枝へ願いがかなうようにそつと結びつけるべくでした。

そして！正月三日に！奇跡が！起きたのです。

（続）

文中敬称略

伸

平成25年8月